



学校だより (5)

事務所 947-3111 ・ 授業日 291-1591

◇<http://www.hjschl.org>

◇e-mail info@hjschl.org

子ども賛歌

校長 福原輝幸

世界は一冊の本

万緑の 中や吾子(わがこ)の 齒生え初(そ)むる

本を読もう。
もっと本を読もう。
もっともっと本を読もう。

「万緑」は夏の季題(季語)です。

書かれた文字だけが本ではない。
日の光、星の輝き、鳥の声
川の音だって 本なのだ。

一面の青葉若葉に、初夏の日差しがまぶしく射しています。

ブナの林の静けさも
ハナミズキの白い花々も
大きな孤独なケヤキの木も 本だ。

抱え上げられて喜ぶ赤子の口元には、ちらりと光る白いものが見えています。歯茎からほんの少し小さな歯がのぞいています。

本でないものはない。
世界というのは 開かれた本で
その本は見えない言葉で書かれている。

吾子は、次女の郁子で、父親は中村草田男、39才の時の作品です。

(省略)

この句からは、人間であれ、動物であれ、生命を次の世代に引き継いで行くことの貴さと生命への畏敬(いけい)の念を感じ取ることが出来ます。

人生という本を 人は胸に抱いている。
一個の人間は 一冊の本なのだ。
記憶をなくした老人の表情も 本だ。

子ども賛歌、人間賛歌、生命の賛歌と言えるでしょう。

(省略)

ところで、以前、小学4年生の幼い娘を亡くして間もない母親が、二軒隣の小学一年生の仲のよかった遊び友だちの男子を殺害し、逮捕されるという事件が生じました。

2000億光年の中の小さな星
どんなことでもない
生きるとは
考えることができるということだ。

「親が悪い」「世間が悪い」の一言で片付けられない深い事件です。子どもを守るために、みんなが出来ることを、一つずつともに実行に移していかなば。

本を読もう。
もっと本を読もう。
もっと もっと 本をよもう。

日本の東北地方にも、遅い春がやって来て万緑の季節を迎えます。かけがえのない貴い生命が、日に日に大きく育っていくはずの季節に。

(長田 弘)